

令和2・3年度  
長崎県教育委員会公募制研究指定校事業  
特別の教科 道徳 研究発表会

## 研究主題

# 「自己を見つめ、わちあいの心もち、よりよく生きようとする 田河っ子の育成」

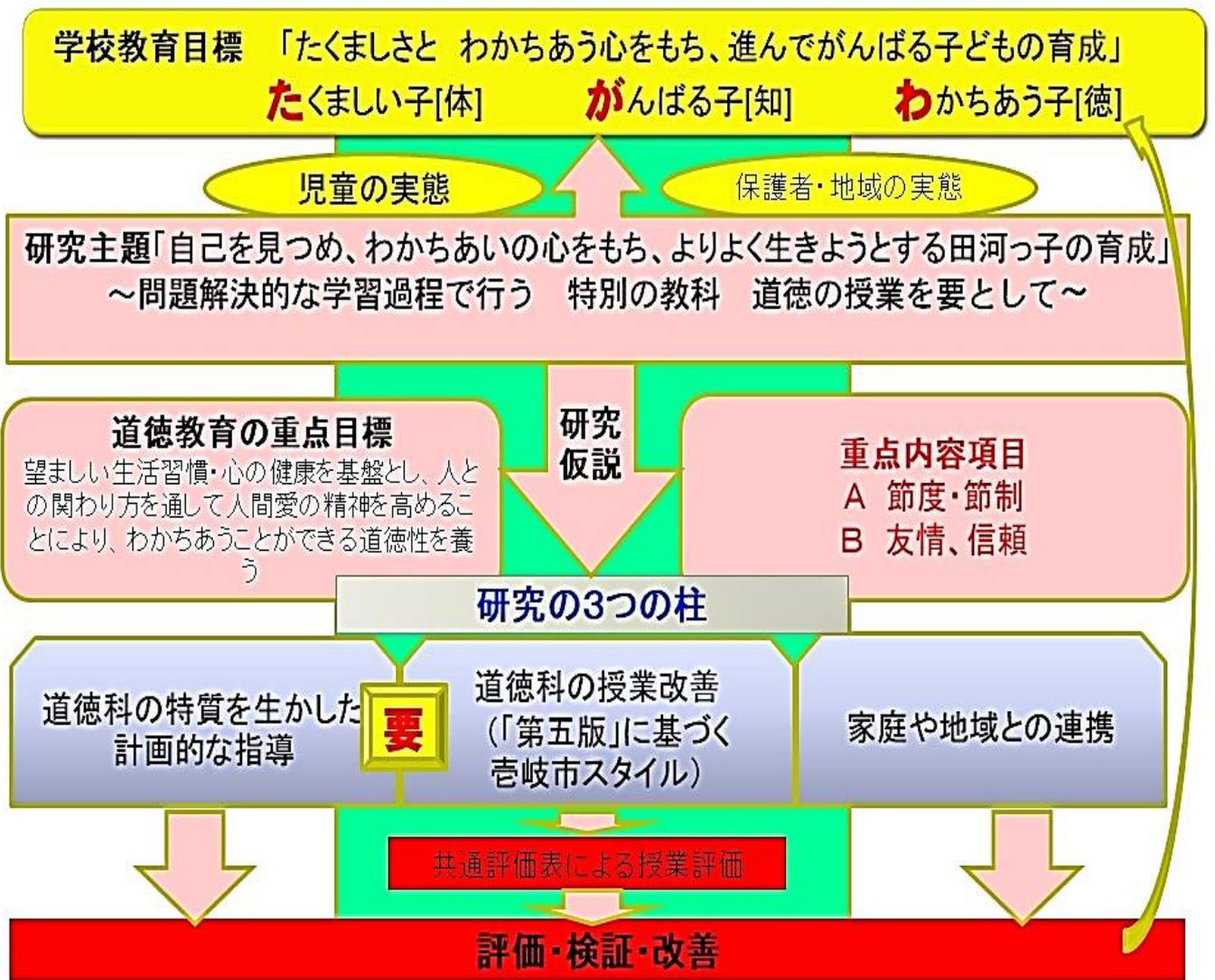
～問題解決的な学習過程で行う 特別の教科 道徳の授業を要として～



令和3年10月22日（金）

壱岐市立田河小学校

## 研究構想図



## 研究組織図



## 研究主題

「自己を見つめ、わかちあいの心もち、よりよく生きようとする 田河っ子の育成」  
～問題解決的な学習過程で行う 特別の教科 道徳の授業を要として～

## 主題設定の理由

今日的課題から

児童の実態から

保護者・地域の実態から

学校教育目標具現化の視点から

## 主題の捉え方

自己を見つめる

「道徳的諸価値の理解」を基に、教材などを手がかりとして、これまでの自分と照らし合わせて自己の生き方を考えようとする児童の姿

わかちあいの心もち

他者と対話したり協働したりしながら人には多様な考え方や感じ方があることを理解することで、多面的・多角的に考えようとする児童の姿

よりよく生きようとする

人としてよりよい自分でありたいと願い、人、社会、自然などに自らが関わり、主体的に考え、判断し、自分の生き方に生かそうとする児童の姿

## 研究仮説

道徳科の授業改善

**仮説①** 「つかむ」過程で、道徳的価値に迫る課題を設定するための手立てを工夫することで、児童が主体的に自分との関わりから、自分の感じ方や考え方を明確にし、一人一人が課題を自分自身の問題として捉えることができるであろう。

道徳科の特質を生かした  
計画的な指導

**仮説②** 「ねりあげる」過程で、教師が切り込み発問や切り返しの発問を工夫し、児童の本音を引き出すようなねりあげの場を設定することで、子どもは他者理解を深めるとともに、多面的・多角的に考え自らの考えを深めることができるであろう。

家庭や地域との連携

**仮説③** 道徳科の授業を要として、他の教育活動と密接な関連を図り、教師が道徳的価値について意図をもって児童へ働きかけることで、自己を見つめ、わかちあいの心もち、よりよく生きようとする児童が育つであろう。

## 成果と課題

○…成果 △…課題

### 道徳科の授業改善に対して

- 「つかむ」過程で、課題を捉えさせるための教材提示の仕方や、焦点化するための発問が明確になり、児童が課題を自ら考えることができるようになったこと。
- 主体的な課題設定により、児童が課題を自分のこととして捉え、ねらいとする価値に対し自分の考えを表現することができるようになったこと。
- 「ねりあげる」過程で、児童の考えを深めさせるための、切り込みと切り返しの発問の設定の仕方について、定義付けができたこと。また、それが、児童が多面的・多角的な考えに気付いたり、本時の価値へと焦点化させたりする手立てになっていること。
- 「わかちあうすがた」や「ハンドサイン」などで、伝え方や聞き方について指導するとともに、教師が意図をもって指名することで、「ねりあげる」過程が単に児童が考えを述べるだけではなく、本時の価値に迫るものになってきていること。

- △ 手立てが似たような内容や手段になってしまうため、より多様な方法を追究していくこと。
- △ 児童の本音に迫り、より多面的・多角的な考えが深まるよう「ねりあげる」過程の更なる充実を図っていくこと。

### 道徳科の特質を生かした計画的な指導に対して

- 授業で考えた道徳的価値を学校生活や学級PTA研修会等で継続して指導することで、児童が自分や友だちのよさに気付く姿が多く見られるようになったこと。

### 家庭や地域との連携に対して

- 校内や教室内の道徳コーナーなどの工夫や学校行事、他教科との関連を意識した指導により、児童の道徳的実践力が育っている姿が見られるようになったこと。
- △ 道徳科の評価を積み重ねながら、長期的に児童の変容を把握する必要がある。そのための継続的な記録や引継をしていくこと。

### 令和3年度全国学力・学習状況調査(児童質問紙より)

(42) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

(6年生児童 15 名中) 当てはまる…11 名 どちらかといえば、当てはまる…4 名

- 毎時間、「一人調べ」や「ねりあげ」の時間を保障し、工夫した手立てを取っていることが、じっくり考えたり深めたりする活動につながり、児童の中に浸透していると考え。

### 本校独自の道徳アンケートから見えること

質問項目	実施年度	肯定的回答の割合 (%)
道徳の時間の勉強は好きですか	R02	96.9
	R03	97.4
人としてしてはならないことをしないようにしていますか	R02	93.0
	R03	98.2
田河の地域が好きですか	R02	92.2
	R03	97.8

- それぞれの価値に関する質問をし、4段階で回答させた。肯定的回答の割合が上がっているものが多く、生命尊重は100%である。本校の取組が、児童の道徳的心情や自尊感情の向上につながっていると考える。

## 研究同人

### <令和2年度>

校長	松嶋真美子	教頭	平本 幸大
教務・専科	牧山 文幸	1年担任	藤谷 真美
2年担任	吉田 貴徳	3組担任	榊原 智子
3年担任	神田 順子	4年担任	井上 彩未
2組担任	大川 伸生	5年担任	桑原希代子
6年担任	田口 智子	専科	市川 重信
特別支援教育支援員	末永 一美	特別支援教育支援員	山口みゆき
養護教諭	沖田 由佳	事務職員	中西 貴喜
用務員	堤 希	学習支援ボランティア	大川 典子

### <令和3年度>

校長	松嶋真美子	教頭	馬場 諭治
教務・専科	牧山 文幸	1年担任	藤谷 真美
2年担任	吉田 貴徳	3年担任	井上 彩未
3組担任	竹尾 保香	4年担任	中尾かおる
	(榊原 智子)	5年担任	北川 誠
2組担任	大川 伸生	6年担任	神田 順子
初任者研修拠点校指導員	福田 好見	特別支援教育支援員	末永 一美
特別支援教育支援員	山口 智美	特別支援教育支援員	堀口たつ子
養護助教諭	竹藤こずえ	事務職員	中西 貴喜
	(中山 夏音)	学習支援ボランティア	大川 典子
用務員	堤 希		



# 道徳科の授業を要として教育活動全体の中で

**仮説3** 道徳科の授業を要として、他の教育活動と密接な関連を図り、教師が道徳的価値について意図をもって児童へ働きかけることで、自己を見つめ、わかちあいの心もち、よりよく生きようとする児童が育つであろう。

## 道徳科の特質を生かした計画的な指導

指導案の中に、他教科との関連・学習の系統を指導案に明記する

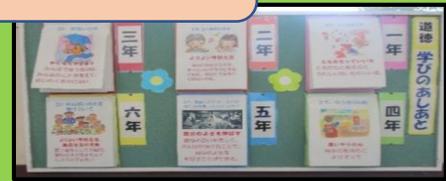
4 教科とのかかわり	<p>日常生活</p> <p>○学校生活全般</p> <p>○学級通信で道徳科の学習内容について知らせ、家庭との連携を行う。</p>	<p>特別の教科 道徳</p> <p>くずれ落ちたダンボール箱 【困った人の身になって】 B-(7)親切、思いやり ○思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる。</p>	<p>学校行事</p> <p>「3学期始業式」 「給食週間」 「6年生を送る会」</p>
教科・領域			
(国語)	「作家で広げるわたしたちの読書」 「伝わる表現を選ぼう」	(図工)	「伝え合いたい思い」 【特別活動】 「3学期のめあてを考えよう」 「楽しい給食」 「リーダーと責任について考えよう」
(社会)	「わたしたちの生活と工業生産」 「情報化した社会と産業の発展」	(音楽)	「Believe」
5 内容項目とその系統			
【第1学年及び第2学年】	B-(7)親切、思いやり	○身近にいる人に温かみで接し、親切にすること。	
【第3学年及び第4学年】	B-(7)親切、思いやり	○相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	
【第5学年及び第6学年】	B-(7)親切、思いやり	○誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすること。	
【5年】	9 ノンストップバスのできごと 「誰に対しても思いやりの心をも」 ○相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても親切にしようとする心情を育てる。	【6年】	7 みんないっしょだよ 【相手の立場に立って】 ○誰に対しても思いやりの心を持ち、親切にしようとする態度を育てる。
28 くずれ落ちたダンボール箱 【困った人の身になって】 ○思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる。	18 心に通じた「どうぞ」のひとこと 【親切の大切さ】 ○相手の立場に立って思いやりの心を持ち、親切にしようとする心情を育てる。		



5年生 「くずれ落ちたダンボール箱」 B-(7)親切、思いやり

「6年生に喜んでもらうために」という思いをもって

校長室前や各教室の道徳コーナー



取組の継続のために



道徳ファイル 資料ファイル

## 家庭や地域との連携

道徳授業参観で保護者・地域へ発信



学級通信で毎回の学習内容を知らせる

### アクセント（道徳） 第2学年 令和2年5月28日 「今回の道徳授業」の紹介

教科名 4 大きなふるつぽんち

ねらい： 自分の好き嫌いとらわれないで人に接しようとする心を育てます。

道徳的価値：公正・公平

◎教材の内容について  
ある日の給食に、人気メニューのふるつぽんちが出ます。「ぼく」は、給食当番でふるつぽんちを配る係です。以前にクラスでは、一人一人によそいずで、足りなくなりました。それが、それに気づいて「ぼく」は配り始めます。しかし、「特良しのしゅんたさん」が、ふるつぽんちを大好きなことを思い出し、多く入れてあげたいと思います。また、多くするその分は、「友だちをわがやんらんらん」の分を減らさないと考えます。「ぼく」は、しゅんたさんのついでにふるつぽんちを多く入れてしまいます。そして、減らさなかったおぼろさんに「どうしてしゅんたさんのだけ、そんなにいっぱい」と、指摘されるというお話です。

◎授業での様子  
子ども達は、「おぼろさんの声聞いたばかりは、どんな気持ちだったろう。」という課題を立て、僕がドキッとしたときの気持ちを考えました。  
・しゅんたさんが好きだから。  
・大切なともだちだから。  
・おぼろさんだって同じようにしないのかな。  
という自分中心の考えを持ちました。その後の発表では、  
・やっぱりみんなと同じくらいにしたいな。  
・前も足りなくなりましたが、多くやったらいいかな。  
と考えを広げました。そこで、「なぜ、特良しの友達があつたことをしたらいいかな。」とたずねると、  
・みんなの気持ちを考えなきゃ。  
との考えが出ました。まとめでは、「ぼくは、好きな友達だけでなく、みんなのことを考えてあげないとダメ」とまとめた。その後、自分の生活を振り返り、自分自身の考えを振り返る時間になりました。

◎ご家庭へ  
低学年の児童は、まだ交際の幅が広がらないので、必然的に「興味や関心のあるもの」「共通の好み」等をもち、人間関係を築いていくことが多いようです。そうして生まれた「特良し」という気持ちは、真の公平から離れてしまうこともあります。また、友達に対する偏った見方を修正する人間の成長は、いじめにつながることもあります。誰にでも公正、公平に接する態度は、ひいては社会正義へとつながります。「好き嫌いで接われないで接すること大切」について、機会を捉えてお子さんと話し合ってみてください。

1年生	通学路のゴミ拾い C-(12) 勤労、公共の精神
2年生	彦岐市農協の集荷場見学 C-(15) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
3年生	安国寺での座禅体験 B-(8) 礼儀
4年生	畜産農家見学 D-(18) 生命尊さ
5年生	彦岐市歴史探訪 C-(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
6年生	海上からの内海湾探索 C-(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

道徳的価値と結び付けた学級PTA研修会の内容(令和2年度)